



新板異人双六(一部)

浮世絵師芳員が、居留外国人の生活を描いたもの。
(万延元年10月刊)

開港ひろば

NEWS YOKOHAMA ARCHIVES
OF HISTORY

●編集・発行／横浜開港資料館
横浜市中区日本大通3
電話 (045)201-2100
元231
●発行 日／昭和62年5月8日
●印 刷／(有)三信印刷所

企画展示の紹介

横浜にあつた西洋——幕末の外国人居留地

横浜開港資料館では五月八日より「横浜にあつた西洋——幕末の外国人居留地」展を開催します。その企画のなかから、いくつかの話題を拾つてみましょう。

従来の居留地像

居留地とは、横浜・長崎等の開港場で、外国人に土地が貸与され、居住と営業が許された特定の場所を意味する。この制度は、安政五年(一八五八年)の五カ国条約によって決められ、新条約が発効する明治三年(一八九九年)まで約四年間続いた。居留地という言葉は、「不平等条約」とか「治外法権」といった言葉と結びついたマイナスイメージを持つているし、居

留民についてもいつの頃から「ヨーロッパの掃溜め」とか「皆食い詰め者ばかり」といったイメージが固定してしまった。他方、西洋文化の移入の窓口として、「エキゾティック」とか「ハイカラ」といった言葉と結び付く面も持っている。例えば大仏次郎は、横浜居留地を舞台にした小説『霧笛』の創作意図に触れて、こう述べている。

「居留地は内地難居を許されなかつた外国人の足だまりで、日本の領土内に珍しい異国の花をさかせた花園なのです。しかしこへ

通商条約の居留地条項

旧条約では、外国人が被告となつた場合、所属国(日本)の法律によつて裁判を受ける「領事裁判権」が認められていた。「治外法権」とは、おもにこの事実を指している。これは確かに外国人の特権であったが、はたして外国側から無理やり押しつけられた制度だったのだろうか。言語・習慣・法律から政治や経済のしくみまで異なる二つの国民が接觸する場合、限定された一定のルールを設けて交際を始めたのであって、居留地や

ルールの一つと考えられる。「領事裁判権」は外国人の特権だ

つたが、その代償として、かなり厳しい行動上の制限が加えられた。「居留」が許されるのは横浜・長崎等開港場の「一区」の場所に限定され、土地所有は認められない。この「一区」の場所が居留地にほかならない。その周囲一〇里四方を「遊歩区域」としたが、居住や営業は認められなかつた。こうした点からみれば、居留地といふべきである。

居留民像をめぐつて

ポンペは、来日した外国商人について、「最初やつて来た人々は、大半が尊敬すべし商社の代表か、日本で一旗揚げようとして来た育ちのよい青年であつた」といつてゐる(『日本滞在見聞記』)。前者は上海や香港に本拠を置く中国系巨大商業社(China firms)の社員、後者は横浜で設立された日本系巨大商業社(Japan firms)の社員を指すものと思われる。いずれも若い人々で、中國では使用人だったが、ここで初めて自分の責任で仕事をし、その利益を自分のものとすることができきたのである。

ポンペは続けて、「遅れて来た連中」は、「日本で数々の悪事を重ねた」と述べている。この事実が誇張されて、「ヨーロッパの掃溜め」といったイメージが生まれ出されたのである。(斎藤多喜夫)

加藤祐三先生に聞く

「横浜にあつた西洋——幕末の外国人居留地——」展に寄せて

白はこの五月八日から始まります企画展示『横浜にあつて西洋、東洋の外国人居留地』展

えればと思います。

聞其一
辨其二。

戸時代の「鎖国」に風穴があき、さらに一八五八年の日米修好通商条約によつて貿易が始まり、その風穴が拡大されていったことにな

が薩摩三島（相模、下総、駿河）に上陸した。ペリーの最初の来航時（一八五三年）にも、双方の大砲は火を噴かなかつたし、翌年の和親条約締結の際にも交戦が一切なく話し合いで調印に至つたことが、第一に重要なことでしよう。当時の幕

交流の場であつたわけで、その横浜における外国人居留地の実像を今回 の展示で紹介できればと思つて います。そこで、どういう居留地であつたのかということになりますが、それは条約の性格によつて大きく規定されているようと思われます。その意味で、近年、日本 の開港・開港を決めた条約に関するとして新しい世界史的視角からの見方を提示（加藤祐三著「黒船前後の世界」 岩波書店刊）されまし た加藤先生から、居留地の前提と

約（一八四四年）で、その三四箇条を削除・修正して二四箇条にし、たため、もともと無理なところがあり、しかもその正文が漢文なのです。ですから、草案を受けた幕府は、林大寺頭ら応接掛が一字一句チェックすることができた。たとえば、難破船の修理費について

で、Treaty of Peace,Amiti and Commerceにならねばです。このTreaty of Peaceは戦争が終わり、敗戦国と勝利国との関係を意味しています。日米和親条約では、戦争をしていなるのは「和」(Peace)はおかしいと幕府側はかなりこだわっています。

これに関連して、歐米列強の対中國あるいは対日本の条約を考えても、従来のように「不平等条約」という概念で一括してくつてしまふのは無理があると思いつつあります。

(一八四一年)は、「和」と「親
約」(Peace and Amity)ですが、追加条
約(一八四二年)や「通商」(Com-
merce)が入っています。望廈條約



加藤祐三先生

は支払いには及ばない、その代わり日本船が難破したらそちらで修理してくれることで相殺しよう、といった平等の原理を主張し、幕府側の意見も採り入れられているのです。その意味では明治以来の幕府無能説はあたっていません。

—— 壬辰條約は通商條約とは違うのですか。

ます。条約発生の根柢が、戦争の結果なのか、交渉の結果なのかが重要であつて、私は、前者を敗戦条約、後者を交渉条約と呼んでゐるわけですが、宗主国と従属国との関係でいえば、最も従属性の強いものに植民地があり、そこでは基本的に立法・司法・行政の三権が喪失されます。敗戦条約の場合は、立法権は残りますが司法・

れ、それがシンガポール（一八一九年）、香港（一八四一年）まで東漸してきます。次の敗戦条約になると、地理的に遠く、時期的に遅く、従属性も植民地にくらべると弱まつてくる。最後が最も遠い日本で、時期も遅く、戦争も伴わず、条約の従属性は最も弱い。

——世界地図を日付変更線あたりで切つて一枚にしてみますと、

交渉条約による開国・開港の場合には、賠償金支払いや領土割譲がありませんから、選択的に財政投資できる状況が確保され、後の発展を保証するうえで大きかつたと思います。

最後に判断・結果がでてくるという風に四段階に区別できると思いま。ペリーにとっての間接情報は、主にシーボルトの著作にありました。持続した統治者を戴く最古の途方もない国という認識があつて、「最も古き国を最も新しい国が扉を開く」と書いています。日本側も、オランダを通して出島から入手した間接情報に、ジョン万次郎などの経験者からの直接情報を加えて、アメリカは若い国だが大統領には誰でもなれる不思議な国で

あるという認識をもつてゐる。そ

強烈になる。その発端は、一八〇八年のフェートン号事件です。それが異国船打払令（一八二五年）となり、アヘン戦争情報（一八三九年～四二年）で決定的になり、天

なる。ペリーが持参したアメリカ大統領の国書を、老中阿部正弘がすぐに回観する。その時に提出された諸見解をみると、オランダとは親父、イギリスには脅威、それらとの関係から親米親露論がでてくる。それと、小型船の建造禁止を解いた（一八五三年）あたりから、海防論が新たな局面へと展開してきます。オランダから軍艦を買うとか、時間的余裕もあつたのでしようが、たんに「夷を以て夷を制す」という宗教的なやり方でなく、列強間の実際的な脇分けをして、現実的な対応を積極的にとっている。いいかえれば、アヘン戦争での清朝の対応とは違つていたわけですね。

——交渉の過程で和親条約から
通商条約の二段階になつたということですが、和親条約によって外
交交渉の枠組をまず確保し、そのうえで通商に入るという経過がか
なり無視できないものとしてあるようになりますが。

から「通商」まで四年ありますから。その間に、賠償金支払いがありませんでしたから富の流失が少なく、貿易の可能性を探れたことと、蒸汽船など機械類の購入やはじめの導入が選択的に図れたことがあります。

和親条約によって下田と箱館に外交官を置くことが決まって、ハリスが下田にやってくるわけですが、江戸城に登城して堀田正睦と会談し、有名な大演説をぶちます。第一にハリスが主張したのは大砲なしの調印がよろしい、もたしているヒギリスがやってきて屈辱的なものになりますよという点です。第二に、アヘンの禁輸の主張です。イギリスと第一回に条約を結ぶとアヘン禁輸にならないと牽制する。ハリスは、米ヤム通商条約（一八五五年）で、前年の英シヤム条約に基づいてマヘンの合法化に不本意なサインをしてしまっているのですね。なぜハリスが日本との交渉で禁輸を堅持したのか、幕府側はアヘンを薬用と信じていてハリスの主張がよくわからなかつたきらいがあります。ですから、アヘンの禁輸条項に関しては、日本側の選択ではなく、全くアメリカのものでした。アヘン禁輸の事後にえた影響は極めて大きいものが

居留地の初期投資

——曰米修好通商條約におけるアヘン禁輸の重要性については、今まで指摘されてこなかつたわけですが、具体的にどのような影響

外交官を置くことが決まって、ハーリスが下田にやつてくるわけですが、江戸城に登城して堀田正睦と会談し、有名な大演説をぶちます。第一にハーリスが主張したのは、大砲なしの調印がよろしい、もたしているとイギリスがやってきて屈辱的なものになりますよという点です。第二に、アヘンの林輪の主張です。イギリスと第一条約を結ぶとアヘン燃輪にならないと牽制する。ハーリスは、米シヤム通商条約（一八五五年）で、

前年の英シャム条約に基づいてマヘンの合法化に不本意なサインをしてしまっているのですね。なぜハリスが日本との交渉で禁輸を堅持したのか、アメリカ外交のそなまでの継承性のほかに、ハリスのピューリタン的感覚や反英主義が

あつたようですが、幕府側はアヘンを薬用と信じていてハリスの手帳がよくわからなかつたきらいがあります。で今から、アヘンの

輸条項に関しては、日本側の選択ではなく、全くアメリカのものたったもので、アヘン禁輸の事後に与えた影響は極めて大きいものが

——幕府のやり方では日本人街の場合がそうですが「区画割だけして土地整備を借地人にまかせています。そういうふうな民間活用のやり方があつたにもかかわらず、居留地に関しては幕府自らがやっていて、従来とは違っていますね。

——日米修好通商条約におけるアヘン禁輸の重要性については今まで指摘されてこなかつたわけですが、具体的にどのような影響が考えられましようか。

加藤 アヘンが入つていればかなりの大量の金貨が流失し、相当なりの経済的混乱を招いたはずです。それがなかつた。そのうえに、幕府は決して財政が豊かだつたわけではなく、財政難だつたが、横浜居留地の建設に九万両ほど投じています。大型船解禁の直後に、軍艦購入をオランダに依頼していますが、蒸気船と帆船各一隻、二隻の合計金額が約五万六千両ですから、かなりの額です。

街の場合がそうですが、区画割だけして土地整備を借地人にまかしています。そういうたいわば民間活用のやり方があったにもかかわらず、居留地に関しては幕府自らがやっていて、従来とは違っていますね。

加藤 かつての長崎出島の場合に準じたとみるのが素直で自然だと思いますが、上海での事例を学んでからもう少し進歩したことかな。

上海では、初期投資を清朝政府がやらないで、居留民、主に貿易商が基金を出し、い委員会を設けてやっています。一八四五年から四

八年にかけて、五〇セントばかり
客土して自分たちの居留地を造り
あげて、五二年くらいになると香
港をしのぐ中国での一大拠点にな
っていく。そうなると、そこに自
分たちの権利が発生してきますか
ら、太平天国によつて中国人が多
数相界に流入してくると、彼らか
らも基金を徴収して、マーケット
や埠頭を建設するといったことを
やつています。外国人が課税する
という「國のなかの國」という状
況が生まれます。そういつた上海
のニュースが日本に入ってきたか
どうか、North China Heraldなど
の新聞を読むことはできたはずで
すから、岩瀬忠震あたりは上海情
報を集めていたと考えても不思議
ではない。そのあたりの資料がで
てくればおもしろいですね。

——横浜は、上海にくらべると
確かに小さいでしようが、小さい
ながら必要な要素のひとつおりが
揃つている。香港版ディレクトリ
で職種を調べてみたことがある
のですが、上海にあつて横浜にな
いのは獣医ぐらいですね。

加藤 それとアヘン商人がない。
……当時の交通手段は主に帆船で
すね。地理的にみると、香港（イ
ギリス植民地）、上海（居留地）、
それに中国の他の居留地があるが、
さらに東に長崎があり、その先が
横浜ですね。居留地にとつては、
それぞれの「点」に、長期滞在を
可能にする環境が必要であつた。

港をしのぐ中国での一大拠点になつていく。そうなると、そこに自分たちの権利が発生してきますから、太平天国によつて中国人が多く數相界に流入してくると、彼らからも基金を徴収して、マーケットや埠頭を建設するといったことをやっています。外国人が課税するという「國のなかの國」という状況が生まれます。そういつた上海のニュースが日本に入ってきたかどうか、North China Heraldなどの新聞を読むことはできたはずですから、岩瀬忠震あたりは上海情報を集めていたと考えても不思議ではない。そのあたりの資料がでてくれればおもしろいですね。

きるかどうか今後の課題でしょう。歴史家としては、世界史の大状況とディテールとをどう結びつけるか、その理論をどう創り、かつ実証を進め、そのうえで個性的な叙述をどう展開するか——これは一生の課題だと思います。

加藤 横浜居留地の地図をみていておもしろいのは、日本人街は通り（線）に名前がついていて、居留地は面に地番をつけていますね。歐米では、一八世紀後半あたりから通りの名前をつけ、それに沿

て左右に偶数・奇数の地番をつけようになつてくる。横浜では日本人街がそうですね。

——通りといつても日本人街の行政単位はやはり面で、地番は表

示の意味しかありません。

加藤 それは地所支配の意味です

ね。都市空間の認別の要素が、線

(道路、通り)か面かという問題

です。日本の城下町などでは面的

に町名がつけられているのに、横

浜の場合、日本人街の方は通りに

名前がつけていて、外国人居

留地にはない。上海租界では、始

めは通りにイギリスの人名をあて

ていますが、その後南京路といつ

た中国の地名になつていく。

——居留地の地番ということでは、横浜では最初は英一番、アメ

三とか国別に呼んでいたが、文久

元(一八六一)年の終わり頃に幕

府側が地番をつけます。地番は一

般的に通りに沿つて順番になつて

いますが、外国人居留民は通り名

を、バンク・ストリートとか、フ

ジヤマ・アベニューとか勝手につ

けています。もつとも、明治一二

(一八七九)年になると、日本側

も居留地の通りに、薩摩町や加賀

町といった町名をつきますが。

居留地の情報合戦

——今回の「横浜にあつた西洋(幕末の外国人居留地)」展の準備で、先日福井へ松平春嶽関係の資料調査を行つきました。資料が

膨大にあるのでごく一部しかあた

れませんで、主に幕末の情報収集

に関する資料をみてきたわけです

が、江戸に各藩の探索方が集まつ

て、情報市ともいべき寄合が開

かれ、彦根藩情報はどうだとい

つた藩レベルでの情報のやりとり

が、ニセ情報を含めて相当あつた

ことがわかります。

加藤 それはおもしろいですね。

——福井藩の場合、横浜に店を開いていた石川屋金右衛門(岡倉天心の父)が翻訳新聞をしきりと送っている。

加藤 商人の顔をした探索方がたくさんいたわけですね。

——事件のたびに横浜をめぐつての情報合戦があり、ニセ情報を流したり、非常に活発にやつている。福井藩ばかりでなく、西南雄藩を含めて総合的にみるといろいろでてくるでしょう。

情報合戦ということに関連していえば、貿易を除いて、全国レベルで横浜居留地のもつていた意味は、情報発信基地としての意義にならうかと思います。

加藤 それは何時まで続くのでしょうかね。

——明治の初めくらいまででしょうね。

加藤 江戸との関係では?

——横浜情報といつても江戸藩邸で一旦濾過されて各藩に流れていったようですね。情報基地といつた場合、中国の居留地(租界)で

はどうでしょうか。

加藤 革命家の活動の場・亡命地

といった政治面での情報基地は、

一九一〇年代からだいぶ後にな

りますね。清朝時代に官僚は居留

地にあまり関心をもつていなかつ

たのではないでしょか。官僚制

下の中国では、「官」と「民」と

身分的差別がはつきりしていて、

ひとりひとりの動きは非常に硬直

化していますから流動的な動きは

できません。もつとも商人によつ

ては租界は情報基地でもあつたの

でしょう。

富民強國

——情報といいましても、武士と、武士から切り離された層の二重構造になつっています。さきほど福井藩の例でふれたように、藩レベルの情報システムは確立していませんが、オープンなものではありません。

庶民は庶民なりに瓦版などを通しての多少尾ヒレのつい

た情報をもつっています。それが幕末期の新聞情報によって双方にと

り思っています。

加藤 交渉条約による開国とい

うことで、戦争がないことを前提に

した黒船体験があつた。そこには

られるのは、たとえばボタンひとつを細かに絵にして記録す

るというほどの西欧文化にたいす

る旺盛な好奇心が表いでてきてい

て、それを自分のものにできるの

ではないかという考え方、つまり

抵抗よりは「転身」の動きが強か

ったのではないか。外国文化の受

けとり方に関するこれまでの歴史

家の説明は、富国強兵にしきり文明

化にしろ、どこか一方にぶれて

しまつてゐる感じがしますね。視

野が拡がつてゐるわりには小さく

見えてしまふ傾向がある。富国強兵

や文明開化を含めて、また当時の

人々の気分までをも掬いあげた言

葉として、私には「富民強國」で

くくるとわりとわかりやすい気が

します。

——「富民強國」といつた時、明治期には富民が強國に従属してしまつて「民」像が見えてこないことが課題としてあるように思ひます。中国との対照でいえば、中國には革命があつたわけですが、中

國には革命があつたわけですが、中

合意を形成していた。だから、日本人は敗戦条約の本当の辛酸はなめていないので、敗戦条約とか交渉条約とかの区別ができる、思想的な貧困状態にある。近現代史を、戦争・内乱・革命だけでは整理しきれません。核戦争の危機のもとでは、競争や差別をも含んだ「共存」の論理を見つけていくことが重要だと思います。過去に共存の歴史はいっぱいあつたが切り捨ててきた。そういう共存の論理を見つけていく際に、今まで申しあげてきた、宗主国・植民地

・敗戦条約・交渉条約の四つの体制論が、幕末期のみならず、

日清戦争後から日中戦争、そして現在に至る経過を理解するうえで有効な理論ではないかと思つています。

——長時間ありがとうございました。

(四月一日、横浜開港資料館記念室にて。聞き手は、館員の斎藤多喜夫と吉良芳恵があたりました。)



R·H·ブラントン旧蔵の写真帳

『写真家ベアトと幕末の日本』展余話

去る二月三日、在イギリス・サンプトンのウォーチョップ女史(E. M. WAUCHOPE)から、ひとと包装された資料が当館に送られてきた。ウォーチョップ女史は、日本近代灯台の父、そして明治初頭横浜のまちづくりに多大な貢献をなしたリチャード・ヘンリー・ブラントン(R. H. BRUNTON)一八四一~一九〇二)の孫娘にある。一九〇四年二月生まれというから八三歳になれる。送られてきた資料はもちろんR·H·ブラントンの関係資料。この資料を整理し、当館が借用できるよう手配してくださったのがイギリス・ホーブ在住のウォーレス博士(Dr. W. S. WALLACE)である。

ウォーレス博士は、一昨年一月一日の灯台記念日に海上保安庁灯台部から招待され、曾祖父トマス・ウォーレス(T. WALLACE)明治二年一月~明治五年五月灯台寮雇(鉄鍛冶職)の日本滞在記を持参し灯台部へ寄贈した。博士は、祖母がブラントン姓であったため自身がR·H·ブラントンのひ孫と思っていたが、その後の調査でR·H·ブラントンとは血縁関係の無かつたことが判明した。にも

- (6) ハリー・ウォーチョップ(?)肖像写真四点
- (7) NEW LIGHTHOUSES IN JAPAN (『THE ILLUSTRATED LONDON NEWS』1872.10.12.) 一点
- (8) 灯台寮付宿船テーボル号(水彩画)一点
- (9) 日本風景風俗写真帳一冊

日本風景風俗写真帳

ミヨコ490ミリの50枚組大判写真帳。100ドルで販売されたものであろう。25葉の風景写真と25葉の風俗写真

かかわらず、博士は、R·H·ブラントンに関心を寄せられ、帰国後R·H·ブラントン調査に乗りだし、ついにR·H·ブラントンの埋葬地(ロンドン、ウエスト・ノーウッド墓地)を発見するとともに、遺族であるウォーチョップ女史にいきあたつたのであった。

当館に送られてきたR·H·ブラントン関係資料は次のとおり。

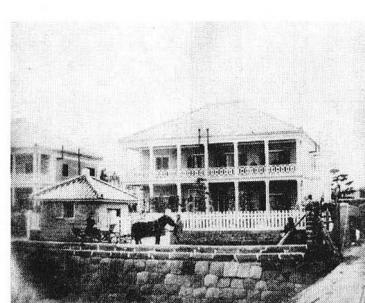
- ① ブラントン旧蔵写真帳一冊
- ② ブラントン結婚証明書一点
- ③ ブラントン肖像写真四点
- ④ ブラントン夫人肖像写真一点
- ⑤ ブラントン夫人、長女及次女(?)写真一点
- ⑥ ハリー・ウォーチョップ(?)肖像写真四点
- ⑦ NEW LIGHTHOUSES IN JAPAN (『THE ILLUSTRATED LONDON NEWS』1872.10.12.) 一点
- ⑧ 灯台寮付宿船テーボル号(水彩画)一点
- ⑨ 日本風景風俗写真帳一冊

が収録されている。

風景写真では、当館所蔵のもの『F·ベアト幕末日本写真集』参考照)とほとんどが重複しているが、大阪城と横浜根岸競馬場の写真は初見のものになろう。また、日本ではないが、明治四(一八七一)年六月、アメリカ艦隊が朝鮮の開港とシャーマン号事件の解決を求めて江華島を襲った際、それに従軍したベアトの報道写真が五点含まれている。

『写真家ベアトと幕末の日本』展

- (1) ブラントン官舎



ブラントン旧蔵写真帳

タテ285ミリヨコ240ミリ、56頁仕立てのアルバム。見開きの左頁に、パリの名所、南米ベネズエラの鉱山、スペインの硫黄工場、ジブラルタルやセビリアなどの写真が貼りこまれているが、ブラントンとの係りはよくわからない。右頁部分は雑多な写真が収められているが、そのなかに横浜弁天の灯台寮や各地灯台の写真が含まれている。

- (3) 灯台船テーボル号
- (4) ブラントン夫妻、長女(?)、使人の記念写真

長崎へ向けて瀬戸内海を全力疾走するデーボル号甲板に、船長ブラウンと灯台建築方フィッシュヤーを撮す。

写真帳の巻頭を飾る。北仲通灯台寮(現第三管区海上保安本部所在地)構内にあつたお雇い技術者用官舎。構内地先を埋立する以前、創建当初の状態を伝えていく。木骨(?)石貼一階建ペランダで撮ったものであろう。ブラントンの肖像写真は、現在までのところ、『日本灯台』所収のものと、明治初年の神奈川県知事・井関盛良旧蔵のもの(川崎宏氏発見)しか知られておらず、貴重である。

以上の資料の入手にあたって、所蔵者のウォーチョップ女史はもとより、ウォーレス博士を始め、仲介の労を執られた日本鋼管の大槻貞一氏及び同社ロンドン駐在の五十畠弘氏に深く感謝申しあげます。なお、当館では明後年に特別展示『R·H·ブラントン』展を開催しています。

(良)

台、静岡・神奈川・元島灯台、兵庫・和田岬灯台、神奈川・剣崎灯台。このうち、石廊崎、佐多岬、剣崎のは、『日本灯台史』(昭44)に同じ写真が収録されている。

長崎へ向けて瀬戸内海を全力疾走するデーボル号甲板に、船長ブラウンと灯台建築方フィッシュヤーを撮す。

(良)

ボーディンと私

石田 純郎

小さい頃から、平気で遠出をする子供だった。五才の時に一km先、八才の時に七km先まで、単独で自転車で散歩にいつていた。

母校の前身岡山藩医学館で、明治三年医学教師を勤めたロイトル (F.J.A.de Ruiter) が、アルフエン出身だと知った時、例え彼の履歴が全く知られていないといつても、地球の裏側のオランダまで、つてもなく単独で調べに行くなど、無謀極まりない。過去の習癖を知らないれば、普通の人には理解出来ないだろう。

昭和五四年秋、私はロイトル調査の目的で、オランダの田舎町アルフェンに着いた。駅前のおなじホテルにチェックインをして、部屋からすでに薄暗くなっていた寒々とした通りを見下した時、とうとう地球の反対側まで一人で来てしまったと、本当に心細くなってしまった。しかし翌日より、貸自転車でとび廻り、戸籍等の基礎史料の収集についた。知識を求める者が、教えを乞えば、うるさがらずに受け入れるのが、オランダ流である。

昭和五六六年秋、静岡で開かれた谷口財團の国際シンポジウムで、ライデン大学医史学ボイケルス教授と知り合いになつた。彼は19

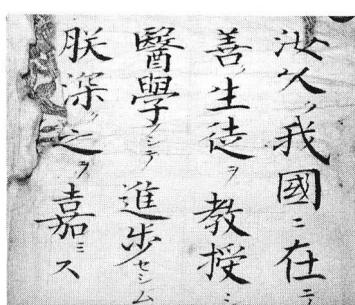
世紀のオランダの医学史に興味を持つており、共同研究を開始することとなつた。具体的には、私の訪蘭に際して、彼は大学と自宅に私を受け入れ、知恵を貸してくれたのである。昭和五七年から四年間に六回もオランダを訪れ、調査を行つた。

その結果、幕末維新（一八五九年）の日本に滞在した一四人のオランダ人医師、四人の薬剤士の履歴、業績のかなりの部分が判明した。そしてこの一八人の中心に、A・F・ボーディン（一八二〇～一八八五）があり、彼は一八四七年から一八六二年まで、ウツレヒト陸軍軍医学校の教官として働き、来日オランダ医の大半を教えた。ボーディンは一八六二年に長崎へ渡来、大阪、東京でも教え、一八七〇年に離日した。ボーディンを始め、オランダ医が日本各地（長崎、熊本、岡山、神戸、大阪、京都、金沢、新潟、横浜、東京）で行つた医学教育は、彼等の母校、ウツレヒト陸軍軍医学校に準拠したものであつたことが判明した。

その結果、幕末維新（一八五九年）の日本に滞在した一四人のオランダ人医師、四人の薬剤士の履歴、業績のかなりの部分が判明した。そしてこの一八人の中心に、A・F・ボーディン（一八二〇～一八八五）があり、彼は一八四七年から一八六二年まで、ウツレヒト陸軍軍医学校の教官として働き、来日オランダ医の大半を教えた。ボーディンは一八六二年に長崎へ渡来、大阪、東京でも教え、一八七〇年に離日した。ボーディンを始め、オランダ医が日本各地（長崎、熊本、岡山、神戸、大阪、京都、金沢、新潟、横浜、東京）で行つた医学教育は、彼等の母校、ウツレヒト陸軍軍医学校に準拠したものであつたことが判明した。

さて、オランダで医学史の調査をする際、頼りになるのが、図書館、古文書館、博物館と付設図書室である。図書館は、たとえ私立であつても、入館者の制限、身分照会等は全くない。古文書館もそうである。ここでは17世紀頃からの個人の戸籍が、何の制限もなく見られる。博物館付設の図書室は、その博物館のテーマにそつて本が集められており、利用に便利である。そしてこの三施設と共に通して言えることは、まず万人に開放されていること、次にインデックスが完備していること、最後に英語のしやべれる親切な係員がいることで、日本の施設と比較し、極めて利用しやすい。

オランダへ行ったびに、オランダ人研究者の友人が増えていった。



日本の医学教育のモデルは、明治四年、ドイツ医学に變つたが、最初に受け入れられたものも、プロシア陸軍軍医学校式の教育であつた。そのため日本の大学医学部の教育は、軍医学校の影響が今も色濃く残っている。一九一五年から一九二六年の大正年間に、医科大学へ昇格した一四大学の内、何と七大学（大阪、京都府立、岡山、新潟、熊本、金沢、長崎）までが、元のオランダ系医学校であつた。

教育は、軍医学校の影響が今も色濃く残っている。一九一五年から一九二六年の大正年間に、医科大学へ昇格した一四大学の内、何と七大学（大阪、京都府立、岡山、新潟、熊本、金沢、長崎）までが、元のオランダ系医学校であつた。

F・A・ボーディンの子孫の家をロッテルダムに訪ねた。当時日本旅行をしたことのあるボーディンの弟D・

ドインと、その弟A・J・ボーディン（一八五九～一八七四に長崎、神戸、横浜に滞在したオランダ領事兼商人）の一人には、子供がなく、そのため遺品が遠縁の彼女とのところに残されているのである。

遺品の主要なものは、一八六二年から一八七〇年の日本の古写真であった。それ以外に錦絵三百枚、日本古地図数点（この中には大学

南校の印が抹消されず押されているものもあり、無断で持帰ったようだ、それに日本刀三振り、象牙の根付数点。そしてこれら日本の宝物を包んでいたくしゃくしゃの和紙（写真）。

ただ困った事に、その際A・J・ボーディンの日本から出した私信一六〇通が紛失した。博物館は返したと言い、遺族は知らぬといふ。歴史家にとつては、この記録が最も大事である。幸いなことに、既に手紙の要旨は、タイアップされて博物館に保存されていた。とても貴重な史料のため、私はオランダ人の助けを得て、翻訳を開始した。医学に関係のある個所だけは、どうにか終了したが、90%が残つた。ところがたまたま、私とは別にある在蘭日本人も翻訳を開始しており、その人から情報を入れてもらい、助かっている。現在これをどのように出版しようか、考えているところである。

ある時ロッテルダム大学のヘンケス教授の紹介で、昭和五七年九月ボーディンの子孫の家をロッテルダムに訪ねた。当時日本旅行をし

と明治天皇の勅語（明治三年閏一月二十五日）であった。私は直ちに、「これは日本の国王の礼状です。この粗末な扱いは何ですか」と大聲で言つた。

実はこれらの品物の大半は、二人の没後いつたん博物館に寄託されていた。遺族の要求で、最近子孫の家にもどされたそうである。そして五七七点あつた日本の芸術品の大半は、オークションにかけられ、売却された。

ただ困った事に、その際A・J・

ボーディンの日本から出した私

信一六〇通が紛失した。博物館は

返したと言い、遺族は知らぬとい

う。歴史家にとつては、この記録

が最も大事である。幸いなことに、

既に手紙の要旨は、タイアップされ

て博物館に保存されていた。とて

も貴重な史料のため、私はオラン

ダ人の助けを得て、翻訳を開始し

た。医学に関係のある個所だけは、

どうにか終了したが、90%が残つ

た。ところがたまたま、私とは別

にある在蘭日本人も翻訳を開始し

ており、その人から情報を入れて

もらい、助かっている。現在これ

をどのように出版しようか、考え

ているところである。

橫濱人物小説

14

文久の遣欧使節員

齋藤大之進

文久二年（一八六二）の遣欧使節大之進という人物について知つてゐる人はおそらく少ないのであろう。そのそらく少ないのであろう。この一人だったといふれば、そういう人もいたかなあ、というぐらいの存在である。したがつて、一般の歴史書に登場する人物ではない。にもかかわらず、ここに紹介しようとしたのは、幕末の混乱期に輩出した、特異な生き方をした人物のひとりに數えてよいように思われるからである。それは、次に紹介する経歷にある。

斎藤をめぐる一族の人々
彼は、文政五年（一八二二）、上野国緑野郡綠野村（現在の藤岡市）の豪農の家に生まれた。斎藤家は、江戸後期に東西に分家したようであり、彼は西の家の流れに属した。彼の兄には、吉原の松本楼の楼主松本金兵衛がいた。この男は、勝海舟の「海舟座談」のなかにも登場する人物で、江戸ではわりと知られた存在であった。この楼には、土佐藩主の山内容堂がよく訪れたともいう。いわば、当時の高級サ

や江戸の文人たちとの交流があつられ、開国・開港にあつて、開明的な思想をもち、周辺の武士に影響をもつた人物だつたようである。こうした人物たちのほか、斎藤の従兄弟の姪に、渡辺華山の十哲に数えられた斎藤与野がいたこともあわせて想起していただきたい。

うから、松本樓を利用してきた当時の有名人のあいだではよく知られた人物だったのだろう。また、彼の親戚に、佐久間象山と親交のある堀口貞明がいた。堀口氏についてはすでに当誌五号で紹介したので簡単に述べておきたい。彼は、斎藤と同郷で、江戸後期にはすでに江戸遊學をしていて、旗本

使節員
大之進

新政府の一員として
ところで、幕臣たちは大政奉還
を迎えて様々な生き方を迫られた。
すでに当誌(西川武臣氏、第九号)で
も紹介したが、ある旗本は妻子
を売り、あげくのはては、どこか
の路傍で野たれ死ぬような悲劇も
すくなからずみられた。また、牛
き方を巡つて、仲間割れなどもみ
られた。この斎藤は、当時、神奈
川奉行改役の地位にあつたが、横
浜開港場において逸早く王臣ぶり
を發揮したらしく、榎本釜次郎な
どのように、幕府擁護に艇身した
幕臣とは基本的に異なる行動を
とつた。このことが原因で、榎本
氏から痛烈な非難を浴びることも
あつた(勝海舟死畫簡、明治元年)

入税五分の減などを約した覚書を
に調印するためだった。この使節
団は竹内保徳を正使として、三六名
の人々が随行した。このなかに、
福地源一郎・箕作秋坪・松木弘安
・太田源三郎・福沢諭吉・川崎道
民などが加わっており、斎藤大之進
は同心役で随行したのであつた。
(益頭駿次郎著・『歐行記』)。同
心役というのは難務係りであつた
が、上記のメンバーと一緒に写真
をとつている状況みて、おそらく
この時点ではよく知った仲間同志
であつたといってよいだろう。ま
た、斎藤大之進にとつてはもつと
華やかな活躍が期待された時期だ
つたのではないかと想像する。

新政府の一員として

ところで、この斎藤は、群馬地方の農民が江戸幕府の武士になつた人物であることは確かなのだが、はたして、農民から武士への転身は具体的にどうして可能だったのか、疑問が残る。つまり、幕府と斎藤とのあいだを取り持つ媒介者がなくてはならないのだが、はたして誰だったのか。これから先のことは、推測にすぎないのだが、冒頭に紹介した家族・親戚の人々の存在が大きくなつて影響してたとみた。このうち、堀口が最有力候補といつていい。堀口は、象山との親交があつたといつぱう、旗本諷詫・浦上との関係が濃く、かつまた

斎藤は、明治維新を迎へ、「外国人居留地御国産物改」を拝命した。という。その後、大病したらしく回復後は燈台係り、「外務官」を歴任した。また彼の書簡によれば、新政府にたいして、五か条にわたって、建白したと述べている。東京に「無双」の大学を作ること、女学校と「男女養育院」を設立すること、蒸気車の実験的製造することなどを提言した。おそらくこの提言は、明治二年のことだったと思われる(斎藤信夫家文書)。その後どのような経過をたどつたかは未詳である。明治三年八月には死去した。四九才の働き盛りであった。

開明派として幕臣の一部からも信頼をえていたらしい。こうした事情などから、その口利はおそらく堀口によつたと推定したい。その運動費は、兄の松本の援助をあおいだか、実家からの資金提供があつたと推定したい。ここに、地方豪農の一族が幕末の江戸・横浜を舞台として多彩な活動を展開した一端をみ、かつ幕府の吏員となつて政治の舞台で活動するにいたつた斎藤大之進なる人物をみたわけである。農民から武士へのコースは決して一般的ではなかつた時代なのであるが、幕末の動乱期が生んだ特殊な事例だつたというべきなのであらうか。

方舟子曰：「余嘗謂人言，中國之書，多是後人所作，故其文辭皆無氣力。」

斎藤大之進の自筆書簡(一部)

